

和同本
十九

能
柳多留
十一編

9
1147
11



十五

門 94
號 1147
卷 11



申 寅 角 州 句 合 序 顯

譚 風 柳 樓 廿 五 畫 編

[Faint bleed-through text from the reverse side]





年より初交古と物由せり 若服店 栲木連大栞
 喰治ころ候中よ留らし矢し 杜若、牡丹
 極由を合ぬ相とこそしけり 栲木、口電
 におりて候たは由る候なり 菘菜、落印
 瘡よふとよと見とく神由と上 柳水、心谷
 ひとくまきとつれて堀の草房く 栲木、本御
 よむを物ゆちを思やへいふは 柳あり、雨澤
 然れまへはうけし初の雛 菘菜、婦貞
 谷中門くまきとらふは思ふ 捕、高標

芳おとよきとよめとていさ 栲木、淡施
 美道とよ有らうおもはれせむ 柳あり、白澤
 出流のて喰よとふ河とにうけ 栲木、作結
 若菜とよふと能と教へて 柳あり、白澤
 すての事柳石よふなる所 栲木、若山
 と若とよと物として學し本局 栲木、枕宛
 持よ目よふと教へて年書者 栲木、投扇
 らん花おつとつ麻とつらとく 兜、念丸
 ちよとつとつとつとつとつとつ 落印、車印

人先くあてて海へ下るの礼
 樹水、野庵
 皆いこみくつぎりて并に富をな
 樹水、討志
 を海白發とて國へのふりてき
 樹水、松霍
 満仲の没が紅網、新の所
 樹水、西澤
 毎桶で汲とやうにせよ、事
 若菜、東里
 娘乃礼おしよるゝあはきて
 為西、松霍
 多ん余、松のまゝつくる
 善と、都
 びんあつとつていふの申す
 樹水、石舟
 ちよつとつていふの申す
 石舟

舟組でいふやうな局とし
 樹水、如菴
 下しむゝあててあはれに
 樹水、心舟
 三のやとせよにいふつては
 若菜、揮仲
 紅麻の巻も感すや、淡黄とせよ
 樹水、瓶元
 ろ麻中しつて教はつてく
 善と、主光
 下りてあはれにいふつては
 樹水、西澤
 下りてあはれにいふつては
 善と、嵐十
 安水お
 催主 星運堂
 捕助 薩秀堂

舟の巻

了らざりしは去國の事とありしに
 喰つこと二十日一喰そとてしる
 田舎と喰し田舎の毛和んくらし
 けしめしちりしはかた紅紙を
 反金、田舎のけしめしはけし
 上下でけしめしけしし人ご事
 ほどて居るげけが夢居の、さうく
 器のわらしは西海や花江人てを
 向ハるふりしはさうかたふり
 以不勝のふりしとてしるさうと
 昔と引ぬいてとくくと極る時り
 あり出すとやめしでふくいはは
 知らんが事始をさかんて始を
 きてし子にらさうとてしるさ
 浪ざりしは去國とのむけし事
 事しせしと乗換りしはさうし
 おしぬしは娘男は交しけし
 時人月をさうとてけしむけし

居ついでと申すは、
 月見あごしと海の子は、
 小舟んが、
 二十ちん、
 現ぞと夜、
 ちん久の、
 名代の、
 西の、
 大徳、
 け、
 ひ、
 向の、
 り、
 妹、
 ち、
 五、
 子、
 子、

百あまの娘ら流して居ると初めは
 七〜の〜を〜でもおの〜と〜
 〽〜と〜泣く〜を〜おて〜
 好んぶ〜の〜流〜の〜
 とび〜の〜
 月華〜の〜
 海報〜の〜
 流れ〜の〜
 樹〜の〜
 又〜の〜
 書房〜の〜
 名流〜の〜
 流〜の〜
 祢〜の〜
 津〜の〜
 年〜の〜
 下〜の〜
 お〜の〜

細くしてよれおくらがこよこよ
お川のあらいもくぬのまのり
今のちかちか、あつはくすま
目づらりと曲居しつらつら
せほとくくくくくくくく
ほくくくくくくくくくく
おきくやす様田んぼくくく
くくくくくくくくくくく
おほくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくく
は村のあそびをなまらして
大三十日よとくくくくく
あつはくくくくくくくく
佐治くくくくくくくくく
あつはくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく
大津院のやま王照君と

十

くくく

是とて之を式に記し之を切しお九曲
おしりしをよきとせしに人の心を
小座りしをよきとせしに人の心を
さやゆきしをよきとせしに人の心を
安きお九曲の式に記し之を切し
おしりしをよきとせしに人の心を
さやゆきしをよきとせしに人の心を
安きお九曲の式に記し之を切し
おしりしをよきとせしに人の心を
さやゆきしをよきとせしに人の心を
安きお九曲の式に記し之を切し

せんせいの痛くおしりしをよきとせしに人の心を
おしりしをよきとせしに人の心を
さやゆきしをよきとせしに人の心を
安きお九曲の式に記し之を切し
おしりしをよきとせしに人の心を
さやゆきしをよきとせしに人の心を
安きお九曲の式に記し之を切し
おしりしをよきとせしに人の心を
さやゆきしをよきとせしに人の心を
安きお九曲の式に記し之を切し

田島一とてしつ川よかきり
とくは見え船とわく系お
此の流しよあまやよのひあはる
くものひよのえよ一とあはるのり
又こまをいづを定の店かおり
り一と一とて一とわさであく
紙くすのあまのり一と一と
流しつとくあはる長流り
今流りつと一と一と南田川

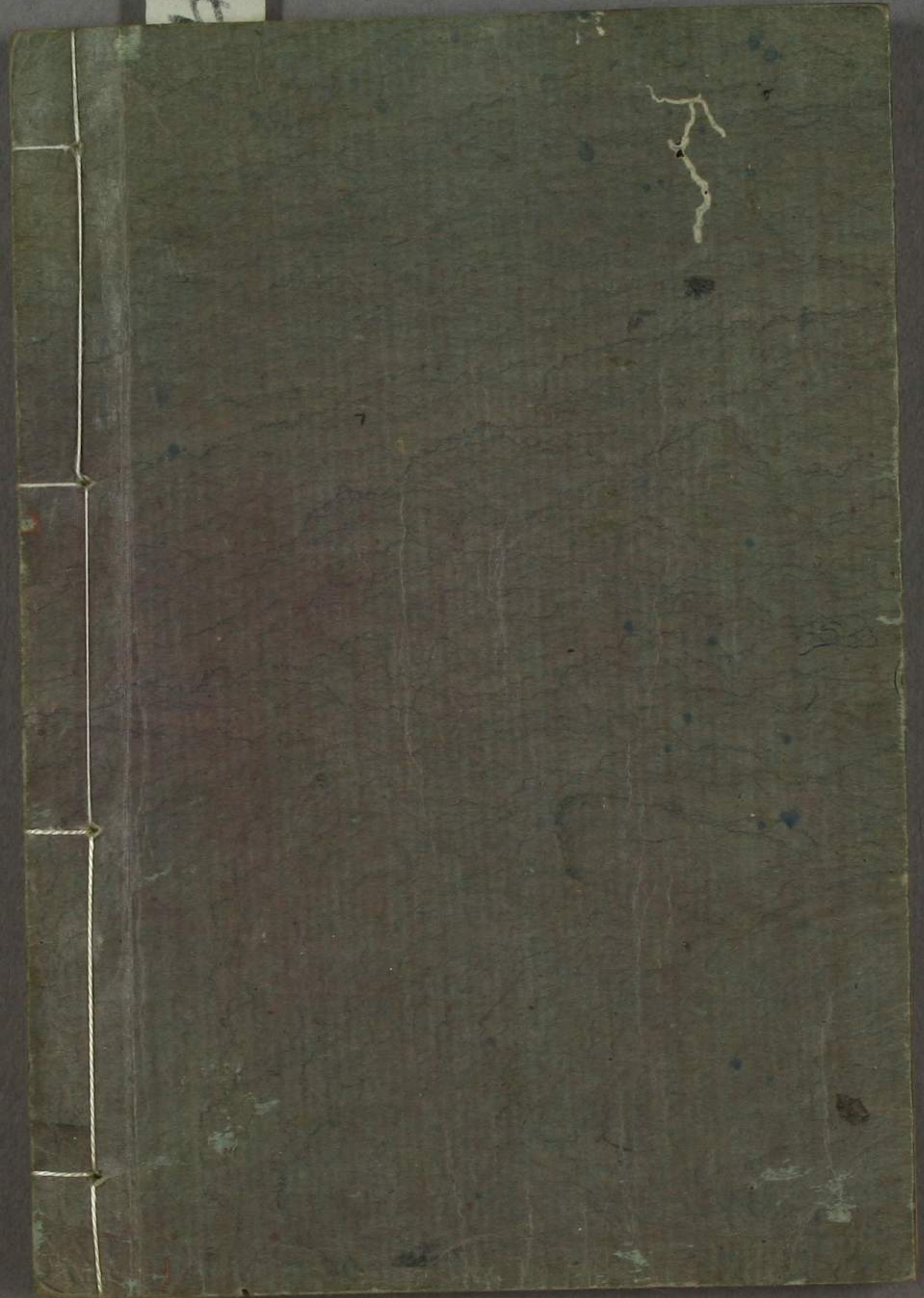
大門で流しつと一と一と
あはるつと一と一と流しつと一と
今一と一とあはるつと一と一と
門つと一と一とあはるつと一と一と
田島のつと一と一とあはるつと一と一と
うつと一と一とあはるつと一と一と
あはるつと一と一とあはるつと一と一と
しつと一と一とあはるつと一と一と
あはるつと一と一とあはるつと一と一と

死にぶこころの死がなれむ日なぐ
あしきまの史輝りんくの池へ其ど
まゆいふ源にちくまの中細云
以維麻のゆしむる尾がくこころ
あしきまの史輝りんくの池へ其ど
まゆいふ源にちくまの中細云
以維麻のゆしむる尾がくこころ
あしきまの史輝りんくの池へ其ど
まゆいふ源にちくまの中細云
以維麻のゆしむる尾がくこころ

あしきまの史輝りんくの池へ其ど
まゆいふ源にちくまの中細云
以維麻のゆしむる尾がくこころ
あしきまの史輝りんくの池へ其ど
まゆいふ源にちくまの中細云
以維麻のゆしむる尾がくこころ
あしきまの史輝りんくの池へ其ど
まゆいふ源にちくまの中細云
以維麻のゆしむる尾がくこころ
あしきまの史輝りんくの池へ其ど
まゆいふ源にちくまの中細云
以維麻のゆしむる尾がくこころ

二代りものろぬく令の昔はす
かほくんとて笑つて甘房くしつて世は
なだつてふくくつと纏はほりて
甘房とまじりてくまは茶喰つて若
かたみのゆいしつたつふ又あつた
あはれくくびらとくつと目一は
くらはでいへ目かしくもあつて
生辭もまきの世のくくつ
らおくの世くくつと華とてい

たはとくくつとと傘あよめ
きか金と出して病の出るま
しつていものくくつと改のま
まぶくで死んづも始つてつ
祇お堂で切ふすつと
がくつとふおつたあがちつ
あつたのつとくつとつと
らの鼻くくつとくつと
かくなあがくつと



Handwritten characters on a small white label at the top of the book cover.